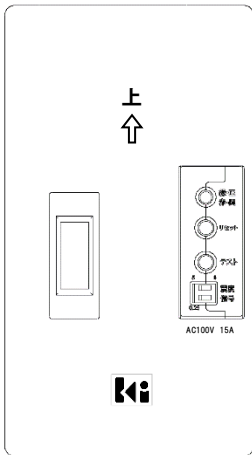


感震ユニット

HKIA003-A2

施工説明書



- 施工前に必ずこの説明書をお読みのうえ正しく施工してください。
- 施工は電気工事士の有資格者が行ってください。
- 施工後は下のお問い合わせ先の欄に連絡先などをご記入のうえ、この説明書必ず取扱者様にお渡しください。

安全上のご注意

警告



・製品の組立用ネジはゆるめないこと。
(故障、感電の原因になります)

注意



・弱電回路や端子間の絶縁抵抗測定はしない。
(機器の故障による感電・発熱・発火の原因になります)



・速結端子への接続は、適正な電線を奥まで確実に差込む。
(不適正な電線の使用や差込みが不十分な場合、誤作動の原因になります)

～施工上のご注意～

- この商品の取付け方向(↑上)の指定と合わせてください。
取付けは目分量(5°～10°位)でOKです。
- この商品は主幹ブレーカーが漏電ブレーカーでないとう動作しません。

【お問い合わせ先】

施工会社

電話 () -



ケー・アイ技術株式会社

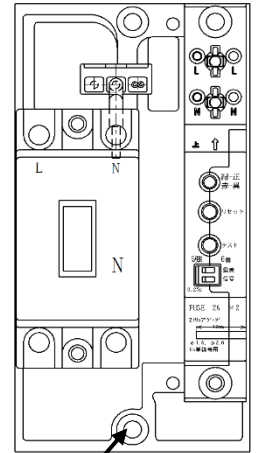
〒515-2401 三重県松阪市嬉野釜生田町 367-1

施工手順

① カバーを外す
手前、右側、底面のドライバー溝を使用

② 本体を取付け
取付け位置を決め、ネジ(M4x25)で止めてください。(石こうボードの壁面の場合で締め付け困難な場合はアンカーを活用してください。)
※推奨—エビモンゴ GL アンカー
※ネジがキチンと締まっていないと誤作動する恐れがあります。

■カバーを外した状態図

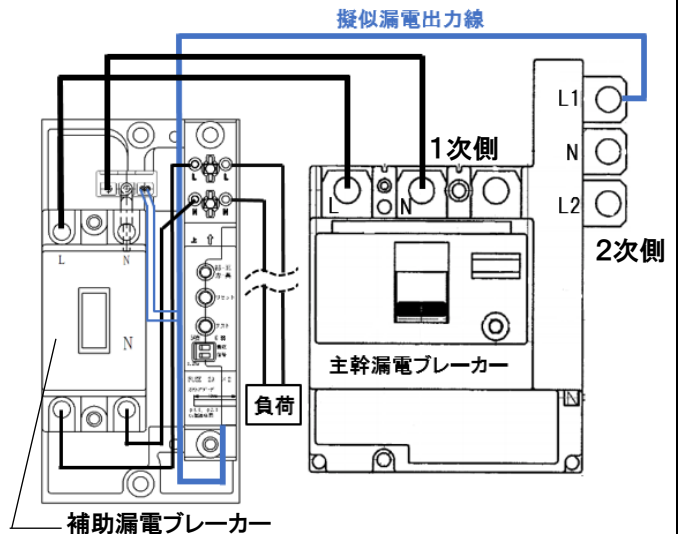


取付けネジ 2箇所(M4x25)

③ 配線
下記の配線のしかたを参照

④ カバーをはめる
はめる際に、配線などを挟まないようにしてください。
(故障、感電の原因になります)

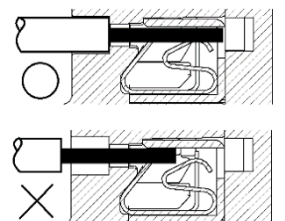
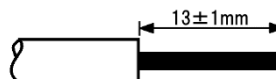
配線のしかた



- ① 主幹漏電ブレーカー1次側のN相L相から補助漏電ブレーカーの電源入力側につなぐ。
- ② 主幹漏電ブレーカー2次側L相に擬似漏電出力線をつなぐ。

■適用電線

φ1.6 φ2 Cu(銅) 単線専用
より線には棒端子をご使用ください。
結線の際は、奥まで差込んでください。



取扱説明

感震時の動作

- ① 設定震度の地震を感知し、主幹漏電ブレーカー(火元)を即断
- ② 補助電源(補助漏電ブレーカー)を15分後に遮断する。
但し、震度6強相当を感知した場合は、5分後に遮断する。
その後、再起動時にもう一度漏電ブレーカーを遮断します。
- ③ 震度5強相当以上の地震を感知し、設定時間内に停電が発生した場合は、復電時に漏電ブレーカーを遮断する。
- ④ 正常状態時に停電した場合は、感震ユニットは復電時に正常状態に復帰します。
- ⑤ 復電時もしくは電源投入時に家屋が30度相当以上傾いていた場合、約10秒後に漏電ブレーカーを遮断して通電火災を防ぎます。
※このはたらきを無効にするには疑似漏電出力線を外す必要があります。
- ⑥ リセットボタンの操作により、正常状態に移行します。
・地震感知後の遮断待機中にリセットボタンを押すと、正常状態に移行します。
・正常状態時にリセットボタンを押すと初期化し、元の正常状態に戻ります。
- ⑦ 地震を感知してから手でブレーカーを遮断しても、再起動時は必ず1回ブレーカーを自動で遮断します。

操作・動作確認テスト

- ① テストボタンを短押(2秒未満)するとLEDが赤く点滅しセンサーが正常であることが確認できます。
(漏電ブレーカーは遮断しません)
この状態からリセットボタン(赤いボタン)を押すと正常に戻り緑のLEDが点灯します。
- ② 正常状態からテストボタンを長押し(2秒以上)すると、主幹漏電ブレーカーと補助漏電ブレーカーを遮断します。

②の作業は必ず実施すること。

注記

補助漏電ブレーカー(電源)投入時に初期設定が正常にセッティングできない場合は、異常信号(LEDが赤く高速点滅)を出します。この場合は、以下の方法でセッティングし直してください。

<異常信号検出後に補助漏電ブレーカーが落ちた場合>

補助漏電ブレーカーの電源がOFF状態のまま20秒以上待ち、その後、補助漏電ブレーカーの電源を再投入する。

<異常信号検出後に補助漏電ブレーカーが落ちなかった場合>

補助漏電ブレーカーの電源をOFF状態にし20秒以上待ち、その後、補助漏電ブレーカーの電源を再投入する。

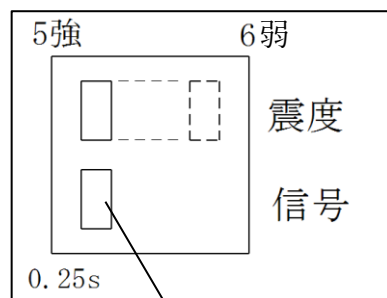
■電源投入手順

再起動時は、まず補助漏電ブレーカーを投入し、次に主幹漏電ブレーカーの電源を入れること。

仕様

品番	HKIA003-A2
定格電圧	AC100V 15A 50/60Hz
適応相線式	単相3線式
主幹漏電ブレーカー	漏電ブレーカー 高速形 30mA 感度専用
地震感知(即断)	[震度設定(切り替えスイッチ)] 震度5強設定(推奨値) 250gal 周期 0.3s・0.5s・0.7sにて動作 250gal 周期 0.1s 不動作 80gal 周期 0.3s・0.5s・0.7sにて不動作 震度6弱設定 計測震度6弱相当で地震感知(周期 0.2s~1.0s)
避難灯用補助漏電ブレーカー	漏電ブレーカー 高速形 15mA 感度 震度6強設定 計測震度6強相当で地震感知(周期 0.2s~1.0s)
設定条件で遮断	・主幹漏電ブレーカー遮断後15分後に遮断 ・震度6強相当を感知すれば5分後に遮断
傾き感知	停電中に地震が発生し、家屋が30°相当以上傾いていた場合、電源復旧時10秒後に電源を遮断し、通電火災を防ぎます。
地震および傾きの報知	震度5強(及び6弱)の場合は緑と赤のLEDが交互点滅 震度6強の場合は赤のLEDが点滅 傾き30°相当の場合、赤の高速点滅
設置場所	LED表示の確認及び、ボタン操作が可能な場所
テストボタン最終テスト	設置後や場所変更時は必ずテストボタンを長押し(2秒以上)して漏電ブレーカーおよび補助漏電ブレーカーが遮断することを、確認する。

[設定切替スイッチ]



信号は切替無し。スイッチは左側固定。